

[001] 語文研究表紙奥付等

<http://hdl.handle.net/2324/10287>

出版情報：語文研究. 1, 1951-03-10. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：



異動・消息

○名譽會長春日政治先生は今般学士院会員となられました。記して心からのお慶びを申し上げます。

○顧問高木市之助先生は昨秋高点をもつて、日本學術會議会員に當選せられました。

○福田良輔先生は、昭和二十五年七月二十四日付を以て本学教授に就任せられ、同時に大阪大学小島吉雄先生の教授兼任が解かれました。

○昭和二十五年十月三十一日付を以て、新たに北海道大学より杉浦正一郎先生が本学助教として来任せられました。

従つて新しい異動は左記のとほりです。

顧問(前会長) 小島吉雄先生

会長(前副会長) 福田良輔先生

○石井和男氏は昭和二十五年十二月三十一日付を以て、本学助手の職を辞任されました。氏は長らく常任幹事として本学会事務運営の上に並ならぬ力を竭されました。ここに厚く感謝の意を表明いたします。

(尚、現在、常任幹事の任事は、重松が担当して居ます。)

行事 [昭和二十四年以降]

卒業論文発表会(昭和二十四年二月六日)

於九州大学三畏閣

鈴木辰とその国語意識 吉田 一

西鶴素描—西鶴が描いた人間について— 毛利 高根

芥川竜之介論—特に二つの自己の問題— 進 来 研 二

上代歌謡の構成について(病氣欠席) 小柳陽太郎

啄木短歌の抒情性について(同) 鶴野 泰隆

特別研究発表 重松 泰雄

文学意識の今日的課題 清田 正喜

落窪物語写本考—長嘯子室筆本について—

新入会員歓迎会(四月二十五日)於九州大学

法文第一演習室 白木 喬

総会(五月一日)於三畏閣の間 黒岩 駒男

大伴家持をめぐる人々 上村 孝二

言語性の成立 東 秀 吉

薩隅方言における接続助詞「サカン」について 目加田さくを

上代形容詞について 重松 泰雄

平仲物語論 石井 和男

かげろふ日記の一節について—射出居に立ちて— 橋本元二郎

抒情詩の独自の性格 藤 井 毅

万葉高橋蟲麻呂歌集の作者と題材 八 木 毅

国語教育の趨勢 金子善治郎

明治中期以後における大阪文壇 小島 吉雄

卒業論文発表会(二十五年二月五日)於太宰府文書館 八尋 欽二

島崎藤村論 立川昭二郎

志賀直哉論 熊本支那第一回研究発表会(二月二十七日)

卒業生送別饗會並びに小島先生謝恩會(同日夜)於今淵氏邸 秋山 正次

熊本支那第一回研究発表会(二月二十七日)於熊本大学教育学部 白木 喬

「見渡せば花も紅葉も」の歌をめぐる考 瀨 古 確

熊本支那第二回研究発表会(三月二十六日)於熊本大学教育学部 瀨 古 確

新古今集に於ける構成的手法について 瀨 古 確

新入会員歓迎會(四月二十二日)於九州大学工学部地下食堂 瀨 古 確

総会(四月二十九日)於三畏閣の間 源氏物語の自然の一考察 上村 孝二

南九州の鼻母音について 秋山 正次

否定表現の一面

道としての中世文芸の成立と展開

藤井 毅

今昔物語集所載歌について

「操曲入門口傳之卷」考

歌物語に於ける和歌愛好論

○引続き議事に入り、機関誌発行の件、新制大学発足に伴ひ教養部教官を本会員として含むの件等が議決された。

例 会(六月二十一日) 於法文第七演習室

伊勢物語の構想について

大阪支部研究発表会(七月十六日) 於大阪大学集会所

去來の一句の解釈

民衆芸術としての淨瑠璃の特殊性

不安の文学として実朝の歌を考へることが出来るか

例 会(九月二十八日) 於法文第一演習室

大宰治小論

万葉集卷四田部忌寸様子の歌一首

機関学術誌発行準備会議(十月七日) 於法文第一演習室

○誌名の件、発行者の件、編集委員の件等に就き討議。

例 会(十二月十日) 於法文第七演習室

謡曲「羽衣」の構成―竹取物語考察の準備として―

堤中納言物語の写実性

村田 正志

大原 一輝

「らむ」「らし」について

合作淨瑠璃作者考

西行の自然感情

義太夫文学の家庭相

調性と辞性のついて

春日先生学士院会員御就任祝賀会(同日夜) 於三畏閣

杉浦先生歓迎会(十二月十二日) 於三畏閣

卒業論文発表会(二十六年二月四日) 於法文第七演習室

方丈記に就きての一考察

萬西蕃藏論

正岡子規の俳句と俳論

特別研究発表

所謂「金葉和歌集初度本」の伝来と性質

奥の細道尾花沢四句考

本年度講義題目

【前学期】(昭和二十五年自四月至十月)

日本における文学観の変遷(国文学講義)

西鶴置土産(国文学演習)

伊勢物語(国文学演習)

国語学概説(国語学講義)

万葉集卷十四(国語学演習)

【後学期】(自二十五年十月至二十六年三月)

前学期継続―芭蕉における伝統の問題(国文学講義)

秋山 正次

横山 正

瀨古 確

清田 正喜

黒岩 駒男

春日先生

世間胸算用(国文学演習)

国語学会(福岡)

国語学会福岡 発令式(昭和二十四年十一月十三日)

同 第一回公開講演会(同日) 於九州大学文学部第七番教室

同 日本語の品詞分類について

同 国語の母韻同化について

同 国語と訓点資料

同 第二回公開講演会(二十五年一月二十一日) 於九州大学法文第七演習室

同 古言清濁考について

同 漢字教授法の一構想

同 中等文法教科書批判

同 第三回公開講演会(五月二十七日) 於県立福岡高校講堂

同 擬音語と擬態語との交渉

同 濁点の歴史

同 九州方言形容詞「カ」・「イ」語尾境界線

同 第四回公開講演会(十一月二十五日) 於九州大学文学部第八番教室

同 万葉及び古今新古今の恋歌を素材としての言語心理学的研究

同 注音符号について

同 第五回公開講演会(二十六年一月十三日) 於県立福岡高校講堂

国語学と国語教育

杉浦助教

福田 教授

福田 教授

福田 教授

小島 教授

小島 教授

福田 教授

福田 教授

福田 教授

杉浦助教

福田 良輔

春日 政治

遠藤 嘉基

石井 和男

白石 光邦

上野 正澄

春日 和男

平井 秀文

吉町 義雄

秋重 義治

目加田 誠

時枝 誠記

(重松記)